

令和3年（2021年）3月5日

令和2年度(2020年度)第3回宝塚市上下水道事業審議会（書面審議）概要

- [意見募集期間]            令和3年2月17日（水） ～ 令和3年3月1日（月）
- [意見提出委員数]        9人
- [審議会の成立]            委員総数10名中意見提出委員数9名のため、宝塚市上下水道事業審議会規則第6条第2項により、審議会は成立
- [意見の内容]                別紙のとおり
- [意見への対応]            別紙のとおり

## 経営戦略中間見直し（案）の変更案

## 1 下水道事業経営戦略中間見直し（案）について

指摘内容	変更案
令和 4 年度以降の他会計補助金（一般会計からの繰入金）について、汚水に係る資本費の 35.2%相当を繰り入れると記載（15 ページ）しているが、令和 4 年度以降の繰入率は現時点では白紙であり、将来の財政収支に他会計補助金の金額が必要であるとしても、率を記載するのは適当ではない。	他会計補助金について「35.2%」という表現を削除し、文章を変更します。具体的には、15 ページの「第 7 章のまとめ」の後段について、「他会計補助金（一般会計からの補助金）を令和 4 年度（2022 年度）以降も一定額を受け取ることができるとした場合」という文章に変更します。また、17 ページ「第 9 章 今後の課題」について、他会計補助金に関する記述を削除しています。なお、11 ページ及び 12 ページ「第 7 章 財政収支計算表」に記載している他会計補助金の額は変更していません。
令和 4 年度以降の他会計補助金が確定していないということは、その補助金を基に計算した使用料の改定率も不確かな数値であるため、試算するのは適当ではない。	使用料の改定について試算した部分を削除し、文章を変更します。具体的には、16 ページ「第 8 章 使用料の改定」について、使用料改定率の試算を削除し、「今後も経営状況や一般会計からの補助金の状況、これまでの審議会からの答申などを十分考慮し、下水道使用料のあり方について検討していきます。」という文章に変更します。

## 2 水道事業経営戦略中間見直し（案）について

水道事業につきましては、都市経営会議での指摘ではありませんが、小浜・惣川浄水場夜間等運転管理委託業務について、委託開始予定月が令和 4 年 1 月から令和 4 年 4 月に変更となったため、8 ページの「(6) 民間委託—小浜・惣川浄水場夜間等運転管理委託業務」の令和 3 年度の効果額（見直し）を「2,514」から「0」に変更します。

令和2年度（2020年度）第3回宝塚市上下水道事業審議会 書面審議結果

日時：令和3年2月17日（水）～3月1日（月）

議題1 水道事業経営戦略中間見直し（案）及び下水道事業経営戦略中間見直し（案）について

No.	事業	ページ	審議会 意見・質問	意見・質問に対する対応、考え方 又は 修正内容	
				内容	修正
1	水道	-	広報たからづか3月号16～17ページの財政課・行革推進課の共著の「宝塚市の行財政経営」の記事の内の「経営状態が悪化する市立病院への財政的支援」の項目の仲で、「これまで、一般会計と水道事業会計から財政的な支援をしており、令和元年（2019）年度末の長期貸付金残高は19.5億円となっています。」と記載されています。一方上下水道の財政収支計算表およびそれら項目の説明でも市立病院への財政的支援に該当する文言は見当たりません。企業債残高が2025年度まで増える予定の中、市民病院への財政的支援は共に独立会計だけに合点がいきません。この点お尋ねします。	水道事業から病院事業に対して令和2年度末で2億5千万円の貸付を行っていますが、水道事業としては、この貸付は財政的支援ではなく、資金運用の一環と捉えています。銀行で運用するのと同程度の利息を病院から受け取り、貸し付けています。	無
2	水道 下水道	-	水道、下水道事業ともに、一般会計から補助金が仮になかった場合（独立採算でやっていく場合）にどの程度の料金改定が必要になってくるのかを試算する必要があると思います。ただし、数字の取り扱いには十分注意する必要があるので、中間見直し（案）に載せる必要はないかも知れません。	ご指摘のとおり、今後の経営は一般会計からの補助金に左右されますので、様々なシミュレーションを行っていますが、市長部局との協議が白紙である現状においては経営戦略中間見直し（案）に記載するのは適当でないと考えています。	無
3	水道 下水道	3 3	コロナ対応における基本料金の減免についてですが、他の事業体等で耳にしたのですが、国や県から減免に対する補助が出て、その収支は相殺されているようです。兵庫県ではそのような対応はないのでしょうか。	宝塚市の水道事業においても、水道料金の減免に対して、国から約2億円の交付金を受けるとともに、県から兵庫県営水道の受水費約2億円の減免を受けており、この金額は財政収支に反映しています。なお、下水道事業については、黒字が続いているため交付金を受け取ることはできませんでした。	無
4	水道	5	阪神水道企業団の受水事業を中心に事業を行った、というくだりですが、計画策定時にはこの事業の期間や規模、金額などが見積もれていなかったのでしょうか。見積もれておらずに、重要幹線であった、ということであれば、想定外の重要案件が生じたとして理解ができるのですが、この文章だけでは納得しにくいといえます。	事業の期間等について事前に見積もっておりましたが、想定よりも受水事業に人手を取られたため、管路更新事業の進捗が遅れたという状況です。	無
5	水道 下水道	10-11 8	広報たからづか3月号13ページ上下水道局職員数は107名となっています。一方今回の中間見直しで、上水道では2019年度の職員数75名、下水道では18名、合計93名で共に総人件費の抑制を掲げているのに1年後には14名の増員となっています。これの理由有ると思います。お聞かせ下さい。	経営戦略中間見直し（案）に記載している職員数は、週4日間勤務の再任用職員を除いた正規職員数となっています。週4日間勤務の再任用職員を含めた職員数は水道事業84名、下水道事業23名、合計107名であり、1年間で職員の増減はありません。	無
6	水道 下水道	12-13 9	表の実績と見直しについて、2段下記になっていますが、できれば表の下に注書きを入れていただき、上段と下段の説明を一文追加してください。本文の最後の文に説明が書いてあるのですが、それではわかりにくいです。	ご指摘のとおり修正します。	有

No.	事業	ページ	審議会 意見・質問	意見・質問に対する対応、考え方 又は 修正内容	
				内容	修正
7	水道 下水道	20 17	今後の課題で、今回算定した水道料金は多めに見積もられていて、アセットマネジメントの結果を待てば、良い結果がでると説明になっています。確かに精度よく評価すれば、ここまで料金改定しなくてもよいかもしれませんが、精度よく評価するためには、データを揃えたり、試験をしたりで、それに関わる経費も出てくる一方で、20の結果よりも大きく変わらないこともあります。アセットマネジメントが必ずしも好転材料とは限らないと思いますので、記載の方法については検討ください。また、正確な経営予測という言葉は引っかけりまです。正確の代わりに、詳細な、や、実態に即した、などのワードに変更されてははいかがでしょうか。	アセットマネジメント（ストックマネジメント）の実施により財政数値が変動するという意味で記載しており好転する可能性もあれば悪化する可能性もあるという意味で記載しています。「正確な経営予測」という表現に関しては、ご指摘のとおり「詳細な」に変更します。	有
8	下水道	9	下水道の包括委託にこれまで多額に計上されていましたが、今後は逆にそれを減らすと方向で計画を示されています。その業務を内部の職員で対応することになりますが、その経費はどこに計上されているのでしょうか。	人件費・委託費・修繕費の合計で1億円の効果額を見込んでいましたが、それが見込めないことが判明したため、人件費・委託費・修繕費について相応の費用を計上しています。	無
9	下水道	15	2006年の運営（経営？）審議会から引用されているのですが、15年も前の審議会の内容が妥当かどうか、社会情勢等も変わってきているので、検討する必要があるかもしれません。	ご指摘のとおり、他会計補助金のあり方について再度議論が必要かもしれませんので検討します。	無
10	下水道	16	指摘内容にある「将来の他会計補助金が確定していないのだから、それを元にした使用料の改定率を試算することは適当ではない」という点について、どのような脈絡での指摘か、書面では十分に理解できないため、誤解があるかもしれないという前提で意見を述べさせていただきます。 上記の指摘は、数字が一人歩きするという考えられ、一理あると思われませんが、将来推計は、ある前提に基づく計算がほとんどであり、すべてが決まった上での推計がなされることはないと思います。そのため、条件を明記した上で、試算結果を示し、市民に対して丁寧な説明のもと、現状と将来の下水道事業経営に関する情報を共有することは必要なことだと思われまます。	使用料の改定率につきましては、都市経営会議における指摘を受け、記載を削除するかどうか局内で協議を行いました。その中で、総務省の経営戦略策定改定ガイドラインにある「経営戦略は収入と支出が均衡した収支計画でなければならない」という文章があることから、黒字が続くと見込まれる事業で料金改定率を記載するのは書き過ぎではないかという意見もあり、記載を削除することとなりました。	無